

保育所 愛光幼稚園

2022 年度 事業計画

1 施設の基本理念

慈愛園創始者、モード・パウラス先生の提唱された「イエス・キリストの教え『謙遜・献身・愛』」に根ざした基本理念のもとに、保育を必要とする乳幼児を受け入れ、「心身ともにすこやかな子ども」を目的とし、一人ひとりを愛し大切に育て下されるかみさまが「いつも共にいて下さる」ことを保育・教育の理念とする。

2 2021 年度の主な取り組み

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策により軒並み専門性の向上に向けた研修は中止の代わりにオンラインや ZOOM により保育者等が参加した。また、登園自粛要請により家庭保育のご協力をいただいたところもあり、保護者の入室を制限することで感染を防ぎ、朝からの体温測定や視診も実施し外部からの入園を最小限に抑えた。時には園外保育や行事の見直しや中止の対応をした。また各クラスの活動となり、遊びを工夫して実践できた。
- (2) 保育現場に必要な ICT 化の経緯は 2019 年から計画に挙げていたが、補助金を使って業務省力化のための ICT 化。ICT ソフトとパソコンやタブレット等のネットワーク環境整備をして ICT を導入した。
- (3) 教会礼拝や聖書会に出席し、キリスト教信仰を自分の課題として受けとめ、そのことにより保育者一人ひとりの倫理観、人間性、職務の責任と自覚を高めるよう園内研修にも多く取り入れた。
- (4) ペーパーレス化により園だよりはメール配信できた。ホームページを見直し保育学生の就職希望者が増えた。また、保護者や地域に園の情報を積極的に発信していった。

3 2022 年度の基本方針

法人の基本理念と運営方針を基盤とし、管理規定、その他の関係する諸規定及び「全体的な計画」に基づき事業の目的達成に努める。キリスト教保育に対してはより積極的に取り組む。日常の保育・教育の中でこれらを具体化し、豊かさを保ちながら一人ひとりの子ども達と丁寧に関わることを目指す。保護者や地域社会と共に歩み、育むことができるように努める。

(1) 重点目標

- ア) キリスト教保育連盟の年主題を基にして子どもたちの年齢別の発達をふま
えながら子どもの一人ひとりの育ちや保育の目標を持って関わっていく。
- イ) 「心身ともにすこやかな子ども」 —健康な体と心ゆたかな子ども—
- ウ) 職員間の連携・チーム力を強化する（職務分担）
- エ) 食育計画
- オ) 健康及び安全（保健衛生計画・避難訓練計画・交通安全計画）

4 2022 年度の具体的な取り組み

(1) 2022 年度 年主題 つながって ～今、わたしを生きる～

2022 年主題聖句は「主がすべての災いを遠ざけて、あなたを見守り、あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも 主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。」

（詩編 121 篇 7～8 節）

- ①月に 1 回は牧師と共に礼拝をし、子どもや保護者が牧師から神さまのお話を聞く機会を増やす。そのことにより牧師や神さまをより身近に感じ今以上にキリスト教保育を保育実践につなげていく。

(2) 幼児期において遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは多様な動きを身につけるだけでなく脳及び心肺機能や骨形成・人格形成等にも影響するなど、生涯にわたって心身の健康を維持し強固なものへと成長する。何事にも積極的に取り組む意欲を育み、基盤づくりとなること等が考えられることから以下のことを行う。

- ①体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、人が生きていくためにも重要なものである。幼児期に運動を調整する能力を高めておく事は、児童期以降の運動機能の基礎を形成するという重要な意味を持っている。また、日頃から体を動かすことは、結果として活動し続ける力を高めることにもつながる。悪天候を除き毎日外気に触れ運動機能を高め仲間と共に活動する。
- ②幼児期に適切な運動をすることで、丈夫なバランスのとれた体を育みやすくする。特に運動習慣を身につけること、身体の諸機能における発達が促されることにより、生涯にわたる健康的で活動的な生活習慣の形成にも役立つ可能性が高まる。年齢に応じたリズム遊び室内体操・音楽リズム・わらべうた遊び・ロアッソサッカー等ふんだんに取り入れ楽しいクラス運営を行いつつ健康的な体の育成に努める。
- ③宗教教育を通してより豊かな人間性と人格を養うよう心がけ、より豊かな神さまへの思いとひとに対する心豊かな感情を共有し、自分の思いや気持ちの表現を他者と分かち合いながら、共に楽しく育ちあう喜びを体験でき

るような保育を展開する。

- ④ルールを守り自己を抑制し、コミュニケーションを取り合いながら、協調・協力する社会性を養うばかりでなく、個人としても自立心を養い地域社会に対応する力を養うことを目指す。地域の学校・公園・施設・病院・駅・郵便局等への見学や声かけなども積極的に行い地域の一員としての存在を体験する。

(3)職員間の連携・育成・チーム力の強化・資質向上（園内研修計画）

- ①子どもや保護者について悩み、ひとりひとりの思いだけでなくチームで話し合い「保育者はお互いがポジティブに前向きな気持ちの連鎖をつくらう」という気持ちがしっかりとしたものとなり前向きな気持ちをみんなで引き出しあう機会を増やしたい。
- ②園長交代により職務や役割をしっかりと構築していく。組織が一体となり働きやすい職場づくりを目指したい。
- ③個々の育成は必要な保育のキャリアアップを見据えて保育者に対する研修の体系化。保育現場では職場定着や人材育成面から専門性や研修を踏まえつつ評価する。職員の勤務年数や職務内容等に応じた勤務条件や職務内容に応じてチーム加算もついてくるので賃金体系を見直す。
- ④専門分野リーダーと分野別リーダーは研修による技能の習得によりキャリアアップができる仕組みに伴い「質の向上」としての処遇改善特例等が報酬として実施していく。

(4)食育を通して体と食べ物の関係にきづく

食べる事は生きる事の源であり、心と体の発達に密接な関係している。乳幼児期から、発達段階において豊かな食の体験を積み重ねていくことにより、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本となる「食を営む力」の育成に向けその基礎を培うことが食育の目標であることから、楽しく食べる子どもに成長していくことを期待しつつ実践していく。

(5)健康及び安全

集団生活を通して、一人ひとりの子どもとその家族が安心安全な生活が保障されていることが実感できるような保育園を目指す。

- (6)特別保育事業の障がい児保育については外部の専門講師に学ぶことで保育に生かす。

- (7)家庭や地域との連携では、子育ての集いを再開する。

(8) 情報公開では苦情処理解決対応・ホームページ開設の見直し・保護者連絡は夢ネットに変更しても給食展示と給食配信は続ける。

(9) 労働環境の取り組みは、休息時間の確保・バースデー休暇の取得の定着に努める。